

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520325

研究課題名(和文) 19世紀アメリカにおけるリアリズム演劇の研究

研究課題名(英文) A Study of Realism in 19th Century American Theatre

研究代表者

古木 圭子 (Furuki, Keiko)

京都学園大学・経済学部・教授

研究者番号：80259738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、Margaret Fleming (1890)を始めとする James A. Herne の戯曲が、Henrik Ibsen の戯曲の模倣であるとする先行研究の指摘に異を唱えた。彼は初期の戯曲 Hearts of Oak (1879) において既にリアリズム演劇の要素を打ち出し、一貫して結婚の神聖性を否定する描写を取り入れてきた。これは、20世紀のアメリカ演劇を担ってきた Eugene O'Neill, Arthur Miller, Tennessee Williams, Edward Albee らの戯曲の要素と共通し、アメリカ演劇独自のリアリズム演劇の根幹を成す要素である。

研究成果の概要(英文)：James A. Herne's Margaret Fleming (1890) has been acclaimed as his most notable accomplishment as a founder of realism in American theatre. Nevertheless, several critics point out that this play was conceived under the heavy influence of Henrik Ibsen's A Doll's House (1879). Yet Herne, even in his earlier work, Hearts of Oak (1879), shows his inclination toward realism in the sense that it eliminates the clear distinction between virtues and vice, and instead emphasizes the characters' social backgrounds, environments and inner struggle. Through my study on Herne's plays, I have examined that his depiction of the negative aspects of marriage, slavery, and the Civil War has notably contributed to the making of realism in American theatre, considering the representative American playwrights in the 20th century such as Eugene O'Neill, Tennessee Williams, Arthur Miller also focused on the negative aspects of marriage in their plays in the 20th century.

研究分野：アメリカ演劇

キーワード：リアリズム演劇 19世紀アメリカ演劇 メロドラマ 南北戦争

1. 研究開始当初の背景

本研究は、19世紀アメリカにリアリズム演劇を推進したとされる劇作家 James A. Herne (1839-1901) の功績について調査することを主目的とした。先行研究においては、Herne のリアリズム劇作家としての19世紀アメリカ演劇への貢献を称えている文献はみられるが、ニューイングランドという地域に根ざした設定、ピューリタンの道徳の制約に縛られながらも自己を主張する女性の描写、人物の内的葛藤に焦点を当てる彼独自のリアリズムの手法などについて詳細に論じられてはいなかった。Dorothy S. Bucks と Arthur H. Nethercot は、本戯曲と Henrik Ibsen (1828-1906) の *A Doll House* (1879) のプロットの類似点を指摘し、Herne の戯曲が独自性に欠けると論じている (322)。しかし彼らの論考は、Herne が具体的に Ibsen の劇に影響を受けた過程について詳細に論じてはいない。また、Herne の伝記作者 Herbert J. Edwards は *Margaret Fleming* に傍白や独白、および「突出した描写」がないことに Herne のリアリズム志向を見出している (59)。しかし、彼の研究は、Herne の伝記と作品の関係を主に論じており、地方色の強調、詳細な心理描写を特徴とする Herne のリアリズムの手法にまでは論が展開されていない。ゆえに、19世紀に萌芽がみられるアメリカのリアリズム演劇が、20世紀アメリカ演劇への橋渡しとなった過程について詳細に検討する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究においては、19世紀アメリカ演劇界におけるメロドラマからリアリズム演劇への転換の様相と、James A. Herne がそこで果たした役割について考察した。先行研究において Herne の功績はある程度認識されているが、彼の戯曲が19世紀アメリカにおいて斬新で実験的な視点を持ち、それが20世紀のアメリカ演劇に影響を与えていた可

能性については詳細に論じられていない。そこで本研究では、Herne が「転換期」の劇作家としての役割を真に果たし、20世紀を代表する劇作家 Eugene O'Neill (1888-1953), Tennessee Williams (1911-1983), Arthur Miller (1915-2005) が開拓した実験的手法への道程を示していたことを明確にしたいと考えた。Herne が劇作活動に従事した1880年代以降は、南北戦争後を境として、アメリカ演劇の新時代が位置づけられた時代であるが、依然としてメロドラマの傾向を持つ戯曲も多かった。同時期を代表する Bronson Howard (1842 -1908) の南北戦争ドラマ *Shenandoah* (1888) は、歴史とメロドラマの融合という点において観客の興味を惹きつけた。他方、Herne の *The Reverent Griffith Davenport* (1899) は、南北戦争を社会問題としてとらえ、その歴史的事象が個人に与える心理的葛藤を描いたが、当時は高い評価を受けるに至らず、Herne 戯曲の研究論文においても言及されることは少ない。しかし南北戦争という国家的テーマと個人の心理葛藤を結びつけた Herne の意図は革新的であり、アメリカ演劇の転換期を論じるにあたって研究対象とすべき作品であると考えた。

3. 研究の方法

本研究は、19世紀アメリカ演劇におけるリアリズムの成立過程を示すことが主たる目的であるため、リアリズム演劇が成立し始めた1880年代以降のアメリカ戯曲の上演記録の調査にあたった。さらに、Hamlin Garland と Herne が交わした書簡等の資料も併せて調査し、Garland が Herne のリアリズム演劇成立に与えた影響についても調査を進めた。

Margaret Fleming が、Ibsen の *A Doll's House* の強い影響下にあるとされていたが、Herbert J. Edwards は、Ibsen 戯曲がアメリカで上演されていた時期には、Herne は俳優として巡回の公演中であり、上演を観ることはなかったと指摘し、Herne と Ibsen 劇と

の接触があったとしたら、それは Garland を通してのことだった可能性が高いと述べている(51)。実際、Bucks と Nethercot の見解とは異なり、*Margaret Fleming* 以前に上演された *Drifting Apart* も、Herne のリアリズム戯曲への傾倒を強く示している。その戯曲から Herne は、さらに一般に受容され難い内容の *Margaret Fleming* 執筆へと進んで行ったことは、Arthur Hobson Quinn によって指摘されている(140)。しかし、このようなリアリズム戯曲成立への道程については、Quinn の論考には詳細に記されていないので、その点について詳細に研究を進めた。

アメリカの「地方色」を強く打ち出すことを重要視した Garland は、Ibsen の描く女性の「大胆さ」と「病的な精神状態」はあまり高く評価できないと考えていた (qtd. in Edwards 52)。一方、Herne の描写する女性像、特に *Margaret Fleming* の主人公には、健全な生活と勤勉を美德とするピューリタンの思想が顕著であり、そこにニューイングランドの「地方色」を打ち出したアメリカ独自のリアリズム演劇の萌芽がみられ、それは 20 世紀アメリカ演劇に受け継がれてゆく要素である。これらの点を踏まえて、本研究では、Garland と Herne の関係性を軸に、リアリズム演劇の成立過程とその独自性について考察した。

さらに本研究では、Herne と同時代の劇作家である Bronson Howard や David Belasco (1853 – 1931) の戯曲やその上演記録、劇作手法について調査を行い、Herne の戯曲と比較し、彼の提唱したリアリズムの独自性と妥当性について考察を進めた。

Howard の *Shenandoah* のプロットと人物描写はメロドラマの類型に当てはまり、南北戦争の問題点を追及した内容となっていない。そのメロドラマとスペクタクル的要素のために、本作は人気を博したのであるが、国家的問題をメロドラマ化することによ

って大衆に迎合するかのようにはみえていた彼の姿勢は、劇作家としての彼の本意であったのかどうかということの本研究で探求した。

David Belasco は、その劇作キャリアの初期段階で、Herne との共作により *Hearts of Oak* (1879) というメロドラマを著した。興行的成功を収めたメロドラマや、大衆劇作家としての一面が強調されてきた Belasco だが、アメリカ演劇に独自の自然主義を持ち込み、現実の生活を舞台に再現することに徹底的に拘ったことでも知られている。そのような彼の劇的手法を探ることは、Herne のリアリズム演劇成立過程との関係において重要な一端を担うので、この点においても研究調査を進めた。

4. 研究成果

本研究によって、Herne の戯曲には、後の 20 世紀アメリカ演劇におけるリアリズムの基礎となったオリジナリティがみられることを論証した。そしてその主たる要素は、それまでのアメリカのメロドラマにみられた結婚の神聖性という価値観の否定であった。さらに、19 世紀アメリカ演劇における主要なテーマである南北戦争について、Herne と共に、Bronson Howard の *Shenandoah* を中心に考察を進め、南北戦争というテーマへの両劇作家のアプローチの差異と、両劇作家が、19 世紀アメリカ演劇に果たした役割について考察し、その結果、メロドラマの劇作家として位置づけられてきた Howard についても、その登場人物の性格描写にはリアリズム的要素がみられることを指摘した。

Dorothy S. Bucks と Arthur H. Nethercot は、Herne がメロドラマから離れてリアリズム戯曲を執筆したのは Ibsen 戯曲に触れた後のことであり、*Margaret Fleming* には Ibsen の *A Doll's House* や *Ghosts* (1881) に「インスピレーション」を受けた部分が多くみられると考察している。(333)。しかし、本研究の結果、彼は *Margaret Fleming* 創作時に初め

てリアリズムを取り入れたのではなく、初期の戯曲 *Hearts of Oak* にも、その萌芽がみられることが明らかとなった。メロドラマと位置づけられることの多い本作であるが、善悪の明確な区別の排除、登場人物の育った環境の描写に力を注ぐ部分などは、リアリズム演劇の要素を打ち出しており、Herne の独自性が認められる。

Herne の戯曲が、人物を支配する環境という要因を強調している点に着目する必要がある。*Hearts of Oak* の Chrystal は、孤児という境遇により、愛のない結婚を選択するに至る。そして、義務による結婚という道を選ぶ状況については、彼女らの孤児であるという身の上が関係していること、つまり、社会境遇の重圧に彼女らが屈したのだということ Herne は強調する。このように、Herne の提唱するリアリズムには、環境の描写に力点を置くという点において、リアリズムと自然主義の融合という要素がみられる。

常山菜穂子が指摘するように、19 世紀アメリカのメロドラマが、伝統的「聖性」の「欠落感を埋める」(22) ものであるなら、Herne の戯曲は、それらの要素を排除していると言える。*Hearts of Oak* については、Chrystal と Ned の結婚に Terry の死という問題が介入するために、ハッピー・エンディングとはなっていない。愛ではなく義務感から派生する結婚を描くことで、Herne は結婚の神聖性を否定している。Herne に続いて 20 世紀のアメリカ演劇を担ってきた Eugene O'Neill、Arthur Miller、Tennessee Williams、Edward Albee (1928-) らの戯曲における夫婦、家族の描写の多くが、その否定的側面を暴露してきたことを考えると、その先陣を切ってアメリカ演劇のリアリズムを推進してきた Herne が、純愛に基づく結婚というメロドラマの約束事を打ち破ることから出発したのは妥当な選択だった。

1880 年代から 90 年代にかけてのアメリカ

は、南北戦争終結から 20 年以上を経て、身近な歴史を見直し、国家の再統一を考える時期に達していた。アメリカ演劇界においても、国家の再統一を願う観客の要望に応える必要性があった。また、1880 年代は、アメリカ演劇界がヨーロッパの戯曲およびヨーロッパの戯曲の翻案化作品の上演を好む傾向から徐々に離脱し、アメリカ独自の題材を求め始めた時代でもある。その時代に活躍した Bronson Howard は、は、史実の忠実な再現や舞台装置の細部にこだわりを示したが、戯曲のプロットや劇の構成においては、センチメンタリズムに偏っており、メロドラマの劇作家と位置づけられる。メロドラマ特有の単純化された道德観、理解しやすい人物像、刺激的なアクションを通して観客は理想化された身近な過去に触れ、個人の尊厳、政治的自由、国家の統一というアメリカの価値観を再確認する作業ができた (Richardson 130)。

Howard は *Shenandoah* において、北部の男性と南部の女性、南部の男性と北部の女性間のロマンスを描くことで、アメリカ合衆国の地域的連合という理想を具現化したが、それは、戦争への悔恨を無視し、国家の統一という理想を観客が再確認するためのプロセスでもあった。しかし Howard は、観客の好みや理想に迎合することを目的としてメロドラマを生み出したのではなく、むしろ、みずからの社会批判の視点をメロドラマという形式に隠微することで、戦争の傷を消去しようとするアメリカ社会の欺瞞を浮かび上がらせようと試みたのである。つまり、観客の期待に応えるメロドラマの世界を提示しながらも、みずからの戦争批判の視点をメロドラマの中に隠微するプロセスを、アメリカ社会が戦争の傷を隠微する姿勢の比喻として用いていると捉えることができる。無数の犠牲者を出した戦闘、南北分裂の原因となった奴隷制、背後に潜む政治の駆け引きといった要素は、自由と平等というアメリカの理想

を根本から揺るがしたがゆえに、誇張された理想主義を掲げることで、彼はアメリカ的価値観の見直しをはかる機会を観客に与えた。

その一方で Herne は、*The Reverent Griffith Davenport* において、社会問題としての南北戦争が個人に与える心的影響を描いた。この戯曲が上演されるまでは、南北戦争が「写実的な方法」で描写されることは極めて稀であり、奴隷制の問題は、Herne の戯曲以前の南北戦争ドラマにおいては言及されることさえなかった。(Moody 166)。そのような意味において本戯曲は社会劇としての色合いが濃く、大衆作家として観客の好みに迎合することを拒み、芸術としての演劇の創造に固執する Herne の立場を明確化する。*Shenandoah* が南部と北部の対立を、親友および恋人同士の関係に準えた形で提示しているのに比して、本戯曲は、その対立を Davenport 夫妻の奴隷制に対する見解の相違およびそこから派生する内的葛藤に準えて提示する。奴隷制の問題と戦争における矛盾、それに相対する人物の心的葛藤を扱った 19 世紀アメリカ戯曲として本戯曲は新境地を開き、南北戦争ドラマの方向性を変えたのである。つまり彼は、南北戦争というアメリカ独自の題材と、19 世紀ヨーロッパからアメリカに入ったリアリズムによる性格描写劇の手法を結びつけ、20 世紀アメリカ演劇を芸術に高めるレベルの下地を作ったと言える。

Shenandoah と *The Reverent Griffith Davenport* における南北戦争という題材へのスタンスは、メロドラマと反メロドラマという対立要素を内包するブロードウェイ演劇の実態を吐露する。内野儀によると、演劇が大衆文化として「成功」を収めるための重要な要素は、「メロドラマの形式を反復する」ことであるが、ブロードウェイ演劇がそもそもハリウッド映画のメロドラマ性の批判の上に成立してきた経緯を考えた場合、ブロードウェイ演劇自体がメロドラマ性を反復す

ることは、その成立の精神に逆行する(8)。このような二面性を孕むアメリカ演劇の要素を具現化しているのが *Shenandoah* である。偶然性の連続する恋愛プロットや戦争の理想化などのメロドラマの要素が羅列されながらも人物描写の善悪の明確な区別を排除し、観客や社会が戦争の真実を隠微するプロセスを示した劇作家としてのスタンスは、文学性の重視という観点に立つものである。

メロドラマと反メロドラマという異なる劇的技法を用いた両者の方向性は対立しているようであるが、Herne と Howard は、19 世紀アメリカ演劇を大衆文化から芸術性を持つ文学作品へと高めようとする意識を共有し、それぞれに、アメリカ独自の演劇形式を模索したのである。

引用文献

Bucks, Dorothy S. and Arthur H. Nethercot. "Ibsen and Herne's *Margaret Fleming*: A Study of the Early Ibsen Movement in America." *American Literature* 17 (1946): 311-333.

Edwards, Herbert J. and Julie A Herne. *James A. Herne: Rise of Realism in the American Drama*. Orono, Maine: U of Maine P, 1964.

Garland, Hamlin. *Crumbling Idols: Twelve Essays on Art Dealing Chiefly with Literature, Painting and the Drama*. Chicago and Cambridge: Stone and Kimball, 1894.

Herne, James A. *Hearts of Oak. Shore Acres and Other Plays*. New York: Samuel French, 1928. 257-329.

---. "Act III of James A. Herne's *Griffith Davenport*: With a Prefatory Note by Arthur Hobson Quinn and a Commentary." *American Literature* 24 (1952):330-51.

---. *Drifting Apart*. Ed. Arthur Hobson

Quinn. *The Early Plays of James A. Herne with Act IV of The Reverend Griffith Davenport*. Bloomington: Indiana UP, 1963. 102-136.

---. *The Reverend Griffith Davenport. The Early Plays of James A. Herne* 139-160.

---. *Margaret Fleming. Nineteenth Century American Plays*. Ed. Myron Matlaw. New York: Applause. 1967. 453-510.

Howard, Bronson. *Shenandoah*. Ed. Myron Matlaw. *Nineteenth Century American Plays*. New York: Applause, 1967. 377-452.

Moody, Richard. *America Takes the Stage: Romanticism in American Drama and Theatre, 1750-1900*. Bloomington: Indiana UP, 1955.

Quinn, Arthur Hobson. *A History of the American Drama from the Civil War to the Present Day*. New York: Appleton-Century-Crofts, 1927.

Richardson, Gary. *American Drama: From the Colonial Period through World War I: A Critical History*. New York: Twayne, 1993.

内野儀 『メロドラマからパフォーマンスへ—20世紀アメリカ演劇論』. 東京大学出版会、2001.

常山菜穂子 『アンクル・トムとメロドラマ—19世紀アメリカにおける演劇・人種・社会』. 慶応義塾大学出版会 . 2007年.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

古木圭子、「アメリカ演劇『転換期』の劇作家 ジェームズ・A・ハーン」、『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)23号、査読有、2012、49-71.

古木圭子、「メッセンジャーとしての同性愛者の役割 テネシー・ウィリアムズ作品におけ

る性、暴力、死」、『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会)24号、査読有、2011、43-62.

古木圭子、「James A. Herne の初期戯曲にみるアメリカン・リアリズムの萌芽」、『英米文化』(英米文化学会)44号、査読有、2014、1-19.

古木圭子、「Chiori Miyagawa: *Thousand Years Waiting*」, AALA (Asian American Literature Association), No. 19, 査読有、2014、77-80.

古木圭子、「ブロンソン・ハウードの『シェナンドア』とジェームズ・A・ハーンの『グリフィス・ダavenport』にみる南北戦争と劇的手法の関係」、『関大英文學 坂本武教授退職記念号』, 第1巻、査読有、2015、289-306.

古木圭子、「チオリ・ミヤガワの『千年待ち』にみる劇的要素としての物語と記憶」、『近現代演劇研究』(日本演劇学会近現代演劇研究会)、第5号、査読有、2015、2-14.

〔学会発表〕(計3件)

古木圭子、「James A. Herne の初期戯曲にみるアメリカン・リアリズムの萌芽」, 英米文化学会第140回例会、2013年3月9日、於日本大学.

古木圭子、「Chiori Miyagawa の *Thousand Years Waiting* にみる劇的要素としての物語と記憶」, 英米文化学会第143回例会、2014年3月8日、於法政大学.

古木圭子、「Chiori Miyagawa の戯曲における時空間を超越する試みについて」, アジア系アメリカ文学研究会 2015年1月例会、2015年1月31日、於京都外国語大学.

〔図書〕(計1件)

入子文子、谷口義郎、中村善雄、水野真理、巽孝之、伊藤紹子、古木圭子他、『水と光 アメリカ文学の原点を探る』, 2013、382 pp.

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

古木 圭子 (FURUKI, Keiko)

研究者番号: 80259738